![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　令和元年７月号（20190719）　　　　　　　　　　　　　　　園長　平澤　正則

妻のトリセツ（黒川伊保子著）

受け売りの連続ですみません。でも，なんかお父さん方の役に立つのではと，やや（かなり？）古い私の脳はこの本に食いついてしまったのです。

その1・・・言わなくても察してほしい女性脳

　「妻が椅子に上って天井の電球を替えている。そういえば，昨日切れてるって言ってたなあと思いだす。心なしか不機嫌でもあるようだ。見かねて『やろうか？』と声をかけると『自分でやるからいい』と取り付く島がない。しばらくしてから，『わかっているならやってくれたっていいんじゃない』と文句を言う。だから『言ってくれれば，やったのに』である。…女性脳は，大切な対象に意識を集中し，ちょっとの変化も見逃さず，…その意図を察して生きている。これは物言わぬ赤ん坊を育てるために装備された能力だから，“察すること”イコール“愛の証”だと信じている。…男性脳は大切なものに対して，習慣的に責務を果たすことを旨とする。毎月給料を渡し，毎週決まった日にごみを出し，毎日同じように帰宅する。これが男性脳が“妻を大切にしている証”なのだ。…このような場面で言うべきなのは『気がつかなくてごめん。僕がやるべきだったね』だ。察したい気持ちを伝えるこのセリフは，ときには愛を伝える言葉にもなる。」…ところどころ，ウ―ン？となる個所も私にはあるのだが，総じてまあそうかもとわからぬでもない私である。

その2・・・夫が気づかない妻が絶望するセリフ

1. 『だったらやらなくていいよ』　　　　　①から⑤まで，本のとおりの解説を書くと字数が
2. 『つまりこういうことだろう』　　　　　多くなるので書きません。なぜなのか自分で考え
3. 『おかず，これだけ？』　　　　　　　　てみてください。奥さんと相談してもＯＫ
4. 『今日何してたの？』
5. 『いいな～君は。一日中○○（子どもの名前）と一緒で』
	* 1. から⑤の中で特に要注意は④と⑤だ。」そうです。「妻が専業主婦や育児休暇中で

ある場合，このセリフは致命傷となる。」・・・これが即理解できた夫はいい夫かも。

その3・・・女の会話は「心の通信線」と「事実の通信線」の2回線，男は「事実の通信線」のみ

　　　女性脳の会話は次の４パターン・・・①心は肯定―事実も肯定　②心は肯定―事実は否定

③心は否定―事実は肯定　④心は否定―事実も否定

　例「ファミレスに中年女性3人が入ってきた。一人が季節限定メニューのマンゴーパフェを見つけた。女性Ａ『見て！季節限定だって。美味しそうじゃない？』　女性Ｂ『あら，ほんと！マンゴーって美味しいよね。』　女性Ｃ『まったりしてて，アイスクリームとも相性いいし。』

…ひとしきり旬のマンゴーのおいしさについて盛り上がったのち，Ｂが『でも，私，チョコね。』とあっさり一抜け，Ｃも『私は白玉にしとくわ。』と二抜けした。それでもＡは特に機嫌を損ねるわけでもない。…この状況，女性能同士なら全然不思議でも何でもない。

…つまり，パターン②の“心は肯定―事実は否定”である。…女性脳同士では，基本③と④は使わない。…心の否定はない。

その4・・・心と裏腹な妻の言葉を翻訳すると…

　　『勝手にすれば』・・・勝手になんてしたら許さないよ。私の言うことをちゃんと聞いて。

　　『自分でやるからいい』・・・察してよ。察する気がないのは愛がないってことだね。

その他，諸々。ああ，死ぬまで勉強だ！